土木計画学研究小委員会「健康まちづくり研究小委員会」
第１回委員会

日時：平成 27 年 11 月 21 日 16:45～18:15
場所：秋田大学 手形キャンパス一般教育 1 号館 303 室

議事次第

１．健康まちづくりの基本的な考え方（秋山代表）

２．委員会の進め方（北詰幹事長）

３．自己紹介（各委員）

４．研究討議
- 小委員会の進め方
- 健康まちづくりに関する議論

懇親会：11 月 21 日 19:00～　秋田地魚・郷土料理 かまくらの郷

土木学会　土木計画学研究委員会

研　究　小　委　員　会　設　置　申　請　書

申請年月日：平成 27 年 5 月 14 日

1. 研究小委員会呼称

＜日本語＞　健康まちづくり研究小委員会

＜英　語＞　Research Committee on Healthy City Strategy

2. 活動趣旨

＜日本語＞

生涯を通して健康に過ごせるライフスタイルが望まれており，それをまちで支える取組みが進んでいる．日常の健康への欲求や健康寿命の増進へのニーズが高まる市民やマーケット拡大に期待する企業だけでなく，それによる社会保障政策費用の削減の必要性が高まる政府にとっても喫緊の課題となっている．しかし，このような課題は，医療・保健分野にとどまらず，総合的なまちづくりの観点から進める必要がある．世界的にみても，Healthy City の取組みに見られるように注目され，さらなる段階への飛躍が期待されている．本小委員会は，このような背景から，生涯を通して健康を実感できるまちづくりを具体的な研究フィールドにおいて進め，まちづくりと健康の関係に関わる実データ収集，そのデータの集計・分析・提示・目標設定による人々の行動への影響，まちづくり手法としてのエリアマネジメントのあり方などを盛り込んだ総合的な研究を進めることを目的とする．

１年目　→　土木計画学会発表

・健康のまちづくりの概念整理とフューチャーデザインコンセプト提示

・健康ネットワークのシステムデザイン

・健康アクティビティモデルのスキーム構成

・環境から支える健康まちづくりのあり方検討

・まちづくりと市民の健康関連データの収集方法の検討とパイロット実施

２年目　→　土木計画学会等、各種学会への発表・議論

・健康まちづくりの包括的マネジメント手法提案

・健康まちづくりモデルの構築と課題抽出

・健康・医療まちづくり目標設定、指標・基準、モニタリング、フィードバックの方法

３年目　→　ワンディセミナー実施

・健康・医療まちづくりモデルの提案

・政策手法、実施方法、評価方法の確立

＜英　語＞

Some programs to support healthy lives that people enjoy high QoL through their lives are carried out in many cities. The issue about a healthy life is paid attention not only by people but also by firms which expect the enlarged markets of healthy goods and services and by municipalities which are faced with financial problems caused by increasing social security policy cost. However, the issue should be tackled from the comprehensive point of view

including medical and healthy one. The “Healthy City” program also attracts attentions all over the world and is expected to achieve more challengeable goal. The purpose of this committee is (1) to research wide range of issues about the healthy city on fields, (2) to collect the data related to healthy cities and people’s behaviors reacted to them, and (3) to study the area management as a method to develop a healthy city.

3. 研究組織

小委員長：秋山孝正・関西大学
副委員長：谷口　守・筑波大学
幹事長　：北詰恵一・関西大学
幹事　　：盛岡　通・関西大学
井ノ口弘昭・関西大学
尾崎　平・関西大学
奥嶋政嗣・徳島大学
土井　勉・大阪大学
森栗茂一・大阪大学
三星昭宏・近畿大学
谷口綾子・筑波大学
大沢昌玄・日本大学
北川博巳・兵庫県立福祉のまちづくり研究所

上記のメンバーを中心に準備を進め、研究小委員会の設立が決まり次第、改めて委員を公募する予定である。

4. 研究期間

研究期間：平成 27 年 6 月～平成 30 年 5 月

5. 予算・研究資金

私立大学戦略的研究基盤形成事業に応募中である。

6. 研究成果の公表方法

本研究小委員会の成果発表会の場として、土木計画学会春大会の企画論文セッションを考えている。また、プロジェクトが終了する平成 30 年夏には、ワンディセミナーの開催を予定している。

7. 事務局

関西大学環境都市工学部都市システム工学科
北詰　恵一
〒565-8680　大阪府吹田市山手町３丁目３番 35 号
TEL 06-6368-0892、E-mail kitazume@kansai-u.ac.jp

以上

健康まちづくり研究小委員会　委員名簿

平成 27 年 11 月 20 日現在

役職	氏　　名	所　　属
委員長	秋山 孝正	関西大学
副委員長	谷口　守	筑波大学
幹事長	北詰 恵一	関西大学
幹事	井ノ口 弘昭	関西大学
幹事	大沢 昌玄	日本大学
幹事	奥嶋 政嗣	徳島大学
幹事	尾崎　平	関西大学
幹事	北川 博巳	兵庫県立福祉のまちづくり研究所
幹事	谷口 綾子	筑波大学
幹事	土井　勉	大阪大学
幹事	三星 昭宏	近畿大学名誉教授
幹事	盛岡　通	関西大学
幹事	森栗 茂一	大阪大学
委員	石塚 裕子	大阪大学
委員	氏原　岳人	岡山大学
委員	加知　範康	九州大学
委員	古倉　宗治	㈱三井住友トラスト
委員	三古 展弘	神戸大学
委員	正司 健一	神戸大学大学院
委員	須永 大介	一般財団法人計量計画研究所
委員	高山 純一	金沢大学
委員	西堀　泰英	公益財団法人豊田都市交通研究所
委員	福本 大輔	一般財団法人 計量計画研究所
委員	松井 加奈絵	東京電機大学
委員	武藤 慎一	山梨大学
委員	室町 泰徳	東京工業大学
委員	森田 紘圭	大日本コンサルタント(株)
委員	柳原　崇男	近畿大学
委員	山室　良徳	中央復建コンサルタンツ(株)

土木計画学研究小委員会

健康まちづくり研究小委員会

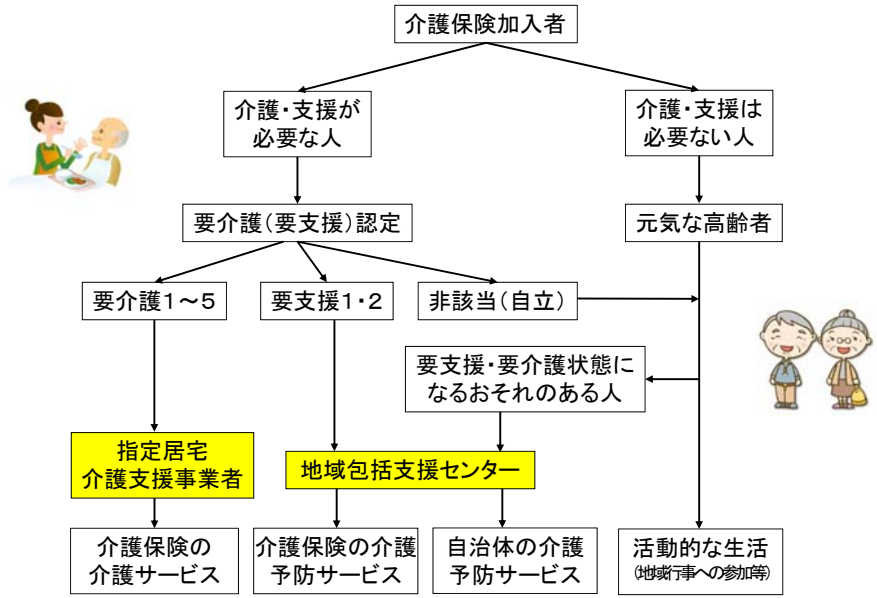
健康まちづくりの基本的な考え方

小委員会代表
秋山 孝正（関西大学）

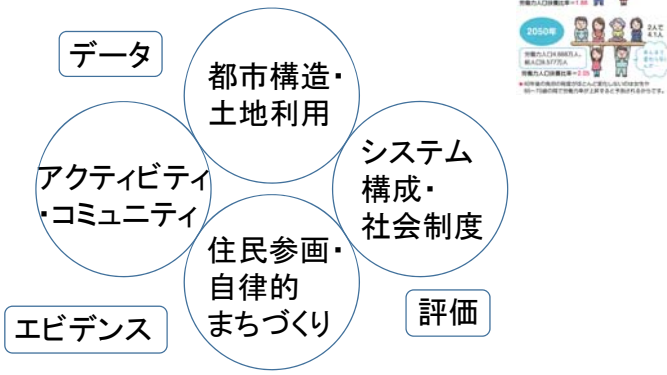
健康の概念

①健康活動、スポーツ、体力増進	日常的健康
②健康増進、健康管理、病気予防	健康増進
③医療・治療	医学的健康
④元気な高齢者、アクティブシニア、バリアフリー	高齢者の健康
⑤介護予防、生活支援	社会的健康
⑥介護サービス、社会福祉	介護福祉的健康
⑦緩和ケア、こころの健康、認知症	心の健康

介護の分類

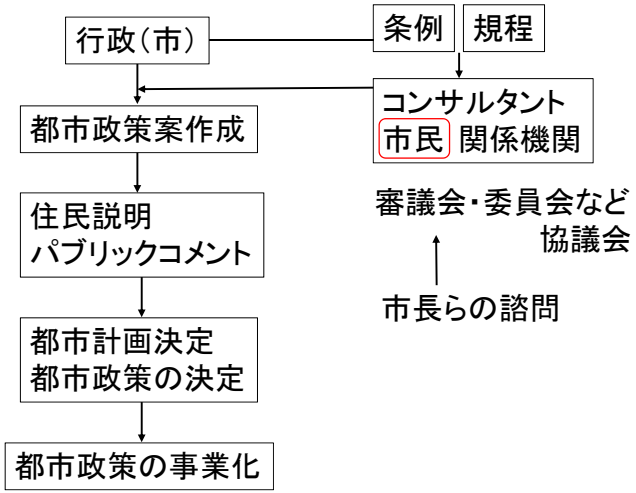


健康まちづくりのテーマ



健康まちづくりの分野

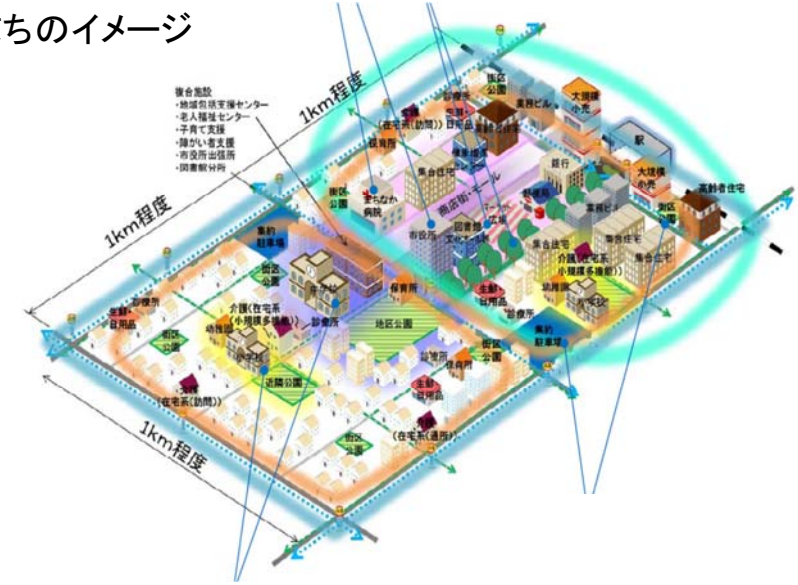
行政計画の手順



通常の公共政策の手順

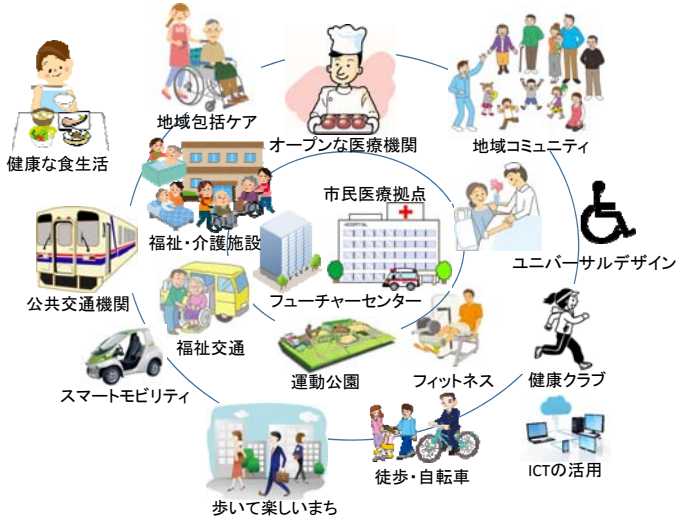
PDCAサイクル

まちのイメージ



出典：国土交通省「健康・医療・福祉のまちづくりの推進ガイドライン」

健康まちづくりのイメージ



エコメディカルシティの中核となる吹田操車場跡地コア街区の果たすべき機能の検討　研究報告書【概要版】

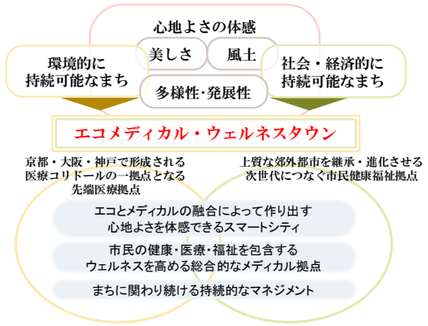
平成 24 年 11 月関西大学

1．目指すべき方向性

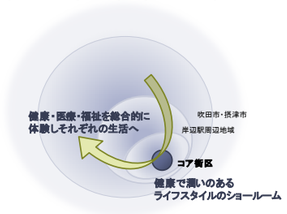
＝エコメディカル・ウェルネスタウン＝

○京都・大阪・神戸で形成される医療コリドールの一拠点となる先端医療拠点

○上質な郊外都市を継承・進化させる次世代につなぐ市民健康福祉拠点



■市民から見たエコメディカル
・ウェルネスタウンのイメージ



市民にとって、健康で潤いのある
ライフスタイルの体感空間

吹田操車場跡地に求められる現況・課題評価

■吹田操車場跡地

・周辺の高度教育機関、病院など特徴的な機能集積との連携
・拠点としての魅力創出、新たな拠点として強いメッセージを発信する環境整備
・吹田・摂津両市域と吹田操車場跡地コア街区をつなぐ交通アクセスの確保
・水とみどりの連続性創出などネットワークの形成
・時代の流れとともに臨機応変に変化する新たなエリアマネジメントの構築

■低炭素社会、環境都市形成

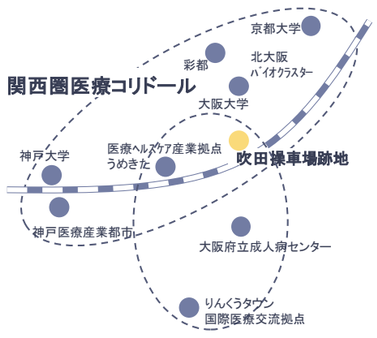
・国の動向、他都市の先進的な取り組みを活かし、災害時の BCP の観点から見た電源多様化、安定供給や高効率化を重視したエネルギー展開検討
・吹田市全域への波及効果を意識したモデル構築
・環境だけでなく、医療・健康福祉など多角的な視点による複合的・横断的なまちづくりの推進

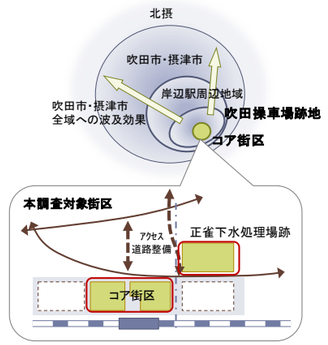
■医療を基礎とする地域振興

・医療機関集積、国立循環器病研究センターによるコホート研究の蓄積等の、吹田市の先進医療拠点としてのポテンシャルを活かし、新たなまちづくりを展開
・市民サービスとして、医療と介護・健康関連産業等の連携による総合的な取り組みの推進

2．対象エリアの考え方

関西圏医療コリドールにおけるエコメディカル先導拠点　吹田市における市民生活を支える拠点





3．基本的な考え方

■基本的な考え方

1）機能複合
・環境や医療・福祉・健康を有機的に複合することで、自ずと高いウェルネスを実現するマネジメント
→各参加主体が高いウェルネスの実現に参画・貢献。先進的な取り組みに挑戦し、その成果を内外に発信

2）時間マネジメント
・社会変化やイノベーションによる変化に対し、将来像等を複数用意し状況に応じたまちづくり手法選択
→「自ら目標を掲げ、評価し、改善する」マネジメントの仕組み構築

3）空間マネジメント
・オープンイノベーションによって、公共性を維持しつつ、社会的マネジメントを実施
→多様な主体がオープンに参加できる場でのコミュニケーションを形成し、皆でまちを育む

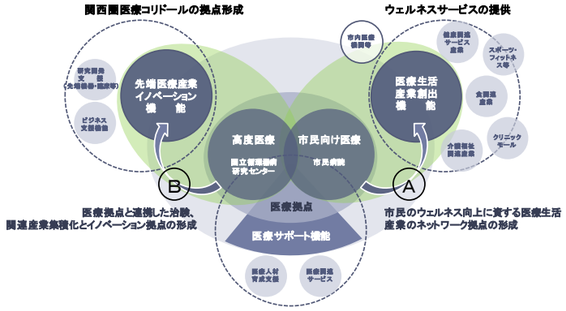
■個別方針

1）健康福祉サービス（医療含む）の拠点形成
2）医療産業拠点のイノベーション
3）スマートシティの形成
4）次世代交通モデルの展開
5）変化し続けるまちのマネジメント

4．機能構成

(1) 医療機能

○市民向け医療の中核病院と高度医療を提供する
2つの医療拠点を中核に、2つの機能を発揮する
→医療・健康面から市民のウェルネスライフを実現する「医療生活産業創出機能」
→関西圏医療コリドールにおいて存在感を発揮しうる「先端医療産業イノベーション機能」



(2) 生活支援機能

○高いウェルネスを実現する生活をサポートする機能立地を進める
→医療機能関連および高いウェルネスを実現したライフスタイルを体感できる住宅機能
→ウェルネスを総合的に支援できるさまざまな業種による生活支援機能の集積

(3) 交通ネットワーク機能

○公共交通の拠点である駅からのアクセスネットワーク
→全吹田を面的につなぐ共同利用バスネットワーク構築

○グリーン交通を前提としたライフスタイル発信拠点

○地域の玄関口としての駅からのまちづくり
→にぎわい醸成を支える街区内外のシームレス空間ネットワーク

○緊急車両交通システムの確立

(4) 環境・エネルギー機能

○地域でエネルギーを考えるしくみ

→主体個々の高度化、最適化と相互連携エネルギー融通

→既存の設備保守管理から付加価値創出型のマネジメント展開

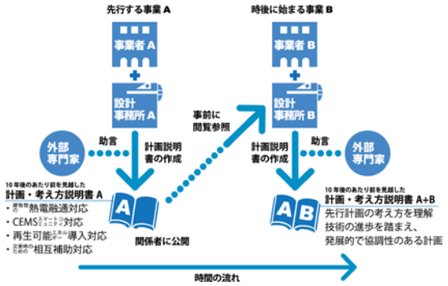
○地域エネルギーマネジメントシステム導入のモチベーション

→エネルギー消費削減・低炭素化への取組み情報の共有化

→平時だけでなく災害時にも対応可能なシステムの実現

○自然と共生するまちづくり

→エネルギーの有効利用と自然を活用した快適なまちづくり



(5) 景観・水・みどり機能

○緑と水のアメニティー(コア街区内外の連続性を確保)

→健康を支える微気候のデザイン形成、風・水・緑・土を体感できる環境づくり

○鉄道からの移動景観(シークエンス)

→操車場の歴史・文化の継承と伝承 、エコやウェルネスのまちづくりのイメージを発信する

(6) 情報通信機能

○情報通信機能が核になり、防災や緊急医療を含むまちの機能全体をコントロール

○技術開発を通じ、エコメディカル・ウェルネスタウンのイノベーションをICTで支える

○情報系を担う主体は開発主体に参画し、効果的な連携を実現。公正で効率的なコスト負担をマネジメント

(7) コア街区運営機能

○各機能と吹田市(都市整備部門)をシームレスに連携させるコア街区センター機能の整備

→空間的な拡がりと社会性を持ちまちの成長をコントロールするマネジメント機能、コア街区の中核となるもの

→高いウェルネスを実現するサービスライフの支援、技術開発の著しい環境・エネルギー技術の先進的導入と個々の導入時期の違いの調整、担い手参加の支援、医療機器産業の活性化・技術者の養成とその展開のサポートなど、さまざまなマネジメント機能を担い、この地区の持続的なまちづくりを支える

5．想定される担い手

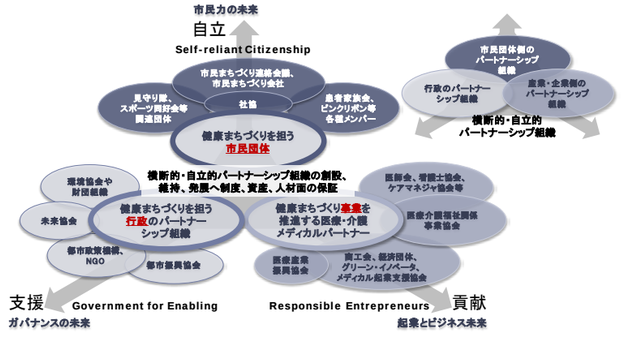
○コア街区の中心となる2つの医療拠点だけでなく、医療機能に関連する医療産業・医療サポート機能、高いウェルネスを実現する居住・生活機能と地区の景観・水・みどりなど環境機能の融合を図る

→機能融合は人・もの・情報のやりとりによって自律的に行われる
それをサポートする情報通信、環境・エネルギーシステムを整備

→開発事業者・インフラサービス提供者によるコンソーシアムによってマネジメントを行う

6．担い手誘致の方針

○「市民、行政、事業者が多様な形でのパートナーシップで連携する」ことにより、健康まちづくりを推進することを目指し、それにふさわしい担い手を誘致する



7．望ましい推進体制のあり方

○エコメディカル・ウェルネスタウンを支える企業(産・民)とそこで暮らす市民(民)、行政(官)、大学(学)による協働のプラットフォーム構築

→企業(産・民)、市民(民)、行政(官)が協働で、産・民の主体的な活動の動機付けを行い、行動を促す協働のプロセスの構築

○エコメディカル・ウェルネスタウンの実現に向けた自由で多様な自立分散をマネジメントするシステム

→大学(学)が高度な専門性に基づく開発・研究、あるいは専門的・社会的な立場からのデザイン領域、社会的な立場からの評価等を行い、自立を支援。産・民・官・学の協働を、最終的に市民が評価する

8．まちづくりのガイドライン

■初動期

○吹田市のイニシアティブによる協働の基盤づくり

→まちづくりの目標像の明確化、応答協議型のプラットフォームづくり支援

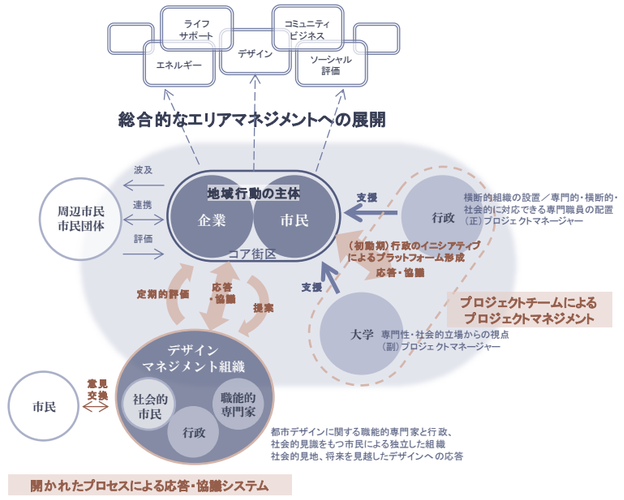
→行政内での横断的組織設置、専門的・横断的・社会的に対応できる専門職員配置

■活動期

○開かれたプロセスによる応答・協議型システムによるデザインマネジメント

→目標像に対する各主体の提案を評価、応答・協議する専門的・社会的組織の設置

→「景観」＝エコメディカル・ウェルネスタウンが見える環境そのもの



9．開発誘導の考え方

■開発パターン

○コア街区を中心に医療保健機能、住機能など空間混合によるシナジーの発揮を狙いとした開発パターンを想定

→時代に応じ、パターンを選択、実施

■時間軸・空間軸を意識した開発誘導

○コンパクトに生んで、不断に育てる

→中長期視点からの戦略的インフラ整備、制度設計、主体の組織化

→初期段階は関係機関、企業の育成を基本とし住民参画をサポート。その後、定常的な社会へのソフトランディングを目指し、ガイドラインの適用実績、PDCAサイクル確立、体制の余裕確保を行う。

○コア街区から重層的に空間の機能混合と内外連携を図り、時空間的な展開につなげる

１０．吹田市の役割

○まちづくりに対する理念を明確にし、地域の意識を高め、地域の主体的な動機付けを行い、市の主導性を示す

○市民が主体となって取組みを評価することを支援する、エリアマネジメントがオープンになされるよう支援する

○エコメディカル・ウェルネスタウンとして、行政域を越えた摂津市との一体的展開、マネジメントを行う